

29M-am03

薬学教育 6 年制における薬局早期体験学習への取り組み

○久保 和子^{1,2}, 長坂 圭子^{1,2}, 秋本 若子^{1,2}, 景山 恵子¹, 石井 晶子¹, 中桐 茂雄^{1,2}, 守安 洋子^{1,2}, 出石 啓治³, 中本 行宣³, 阿藪 寛明⁴, 森山 圭⁴, 渡辺 雅彦⁴, 四宮 一昭⁵, 北村 佳久⁵ (1) (社) 岡山県薬剤師会会営薬局, (2) (社) 岡山県薬剤師会薬事情報センター, (3) (社) 岡山県薬剤師会, (4) 就実大薬, (5) 岡山大薬)

【目的】薬学教育 6 年制がスタートし、薬学教育モデル・コアカリキュラムに基づく早期体験学習が必須となった。しかし、一般目標は明示されているものの、その実施に関しては各大学に委ねられており、全国的に事前学習の有無や学生一人当たりの見学施設数や時間など、その方法は大学により異なっているのが現状である。そこで今回、これまでの 3 年間の早期体験学習受け入れ経験をもとに、6 年制における薬局での早期体験学習を実施した。さらに、他大学も今年度実施予定であり、同一大学内での比較および大学間での比較検討した結果を報告する。

【方法】1 グループ約半日の日程で、薬局に併設されている薬事情報センターの見学と併せて実施した。異なる実施日で各大学 2 グループを受け入れ、1 回の受け入れ学生数は、大学側の希望人数で行い、6 ~ 10 名であった。過去の受け入れでは、指導薬剤師が業務内容を説明し、学生の質問に答えながら実施する見学型の学習であった。今回、6 年制開始とともに学習内容を見直し、調剤の体験や SGD も取り入れた。予め到達目標を設定して一部評価を行い、終了後には早期体験学習の成果を把握するために学生と引率した教官に対してアンケートも実施した。

【結果・考察】これまで 3 年間受け入れた実績と、今年複数回実施した経験から、当施設の早期体験学習に果たす役割や問題点、学生のモチベーションへの影響などを客観的に比較・評価することができた。今後、さらに早期体験学習を実施した学生の実務実習を受け入れることにより、学生のモチベーションの変化や実務実習での到達度への影響などを追跡していく予定である。薬学生のニーズに応じた早期体験学習を確立し、継続的に保険薬局として薬学教育に貢献していきたい。